青島市档案館(Qingdao Municipal Archives)の紹介

富　澤　芳　亜

はじめに

「档案館」といっても、本誌の読者にはなじみの薄い存在であろう。中国語でいう「档案」とは、英訳に示したように公文書であり、「档案館」とは公文書館である。現在、中国の「档案館」の業務は、主に二つの業務からなっている。一つは、現在の会社登記や土地登記の状況などを公開する「現行档案」関係の業務である。そしてもう一つが、本稿で触れる歴史的な公文書である「歴史档案」関係の業務である。

中国の文書行政は、日本と比較して、はるかに進んでいるといっても過言ではない。省や自治区や国務院直轄市（北京、上海、天津、重慶）といった一級行政単位は無論のこと、その下部の行政単位である県、市、区などもそれぞれに档案館を持っているし、大学などの行政機関も独自の「档案館」を持っている。ちなみに島根県にも島根大学にも、公文書館は存在しない。日中両国の文書行政にこのような大きな格差が生じた原因には、中国の「档案館」が現行の公文書を扱っているという事情もあるだろうが、やはり最大の原因は、日本人と中国人の「歴史の重み」のとらえ方の異なりであろう。

なお青島市档案館はホームページを公開しており（http://www.qdda.gov.cn/index.jsp）、閲覧などについての基本的な情報はここからも得ることができる。

1．档案館の歴史と沿革

青島市档案館は、1959 年に建設計画が立案され、1961 年 7 月に正式に設立された。1966 年に青島市档案館と新設の青島市档案管理局は青島市湖南路に移転し、これ以降、合同で業務を行っている。「文革」期には、青島市档案館と青島市档案館は廃止されたが、「文革」終了後の 1979 年 12 月に回復された。青島市档案局は、行政機関として青島市共産党委員会と青島市政府の二つの機関からの指導を受けており、青島市档案館も市共産党委員会と市政府の両機関直属の科学文化事業部門である。1997 年に青島市档案館は、それまでの旧市街から市東部にある延吉路の総面積 13000 ㎡の新館へと移転している。

青島市档案館の所在地：　郵便番号 266034　青島市延吉路 148 号、E-mail:wdfwzx@163.com。

2．閲覧の方法

1) 閲覧の準備

閲覧を予定している日時の一ヶ月前までに、閲覧の申請書と所属する機関の紹介状を郵送することが必要となる。当然のことだが、申請書と紹介状の双方とも中国語で作成しなければならない[(1)]。筆者の場合には、申請書が青島市档案館に受理された後に、閲覧を許可する旨の電子メールが档案館から送られてきた。ちなみにこのメールも、当然のことながら中国語である。

2) 閲覧時間

月曜日～木曜日は午前 8:30 ～ 12:00、午後 1:30 ～ 5:00、金曜日は午前のみとなっている。

3) 閲覧

(1) 申請書と紹介状の書き方については、拙稿「中国歴史第二档案館(ママ)にいってみよう」『広島東洋史学報』第 2 号、1997 年を参照されたい。なお「中国歴史第二档案館」という表記は誤りであり、正しくは「中国第二歴史档案館」である。

カウンターで閲覧を希望する公文書群を申請すると、係員が目録を持ってきてくれる。この目録から閲覧する文書の番号を申請書に書いて、再び係員に申請すれば、文書が閲覧室に運ばれてくる。なお档案一巻あたりに2元（2004年1月時の邦貨に換算すれば27円程度）の手数料が必要となる。また目録のみの閲覧であれば無料である。複写については、1949年以前の档案では許可されない。

3．所蔵档案の簡単な紹介－旧「在華紡」史料を中心にして－

ここでは青島市档案館所蔵の中華民国期档案についての簡単な紹介をする。以下に挙げる表が、民国期档案の目録である。

表　青島市档案館所蔵中華民国期档案

全宗号	宗　号　名　称	档案該当時期	案卷数量
正字2	国民党青島市党部	1928～1949	28
正字3	中華海員総工会青島分会、国民党海員特別党部青島区党部(全宗滙集)	1945～1949	203
正字6	三青団青島区団部	1948～1949	7
正字7	中統青島区室、魯東区室等国民党駐青情報機構(全宗滙集)	1937～1949	13
正字17	青島市警察局	1922～1937	3795
正字18	青島特別市警察局	1938～1945	2252
正字19	青島市警察局	1945～1949	2131
正字20	青島特別市政府総務局人事科、青島市政府人事処(全宗滙集)	1938～1949	4395
正字21	青島市社会局	1920～1949	4716
正字25	励志社青島分社	1945～1949	249
正字38	山東高等法院第二分院及検察処(全宗滙集)	1929～1949	696
正字39	青島地方法院及検察処、看守所(全宗滙集)	1922～1944	5510
正字40	青島高等法院、青島高等検察署(全宗滙集)	1938～1945	1554
正字41	青島地方法院、青島地方検察署、青島地方法院看守所(全宗滙集)	1938～1945	2724
正字42	青島監獄	1937～1949	322
正字43	山東高等法院青島分院及検察処(全宗滙集)	1930～1949	1183
正字44	青島地方法院、青島地方法院検察処、青島地方法院看守所(全宗滙集)	1927～1949	2846
正字45	青島高等特種刑事法庭	1948～1949	282
正字46	青島市警察局指紋档案	1926～1949	54
正字47	駐青軍事機構档案滙集	1929～1949	46
臨字21	青島市社会局	1929～1949	1501
臨字22	青島市政府	1923～1937	479
臨字23	青島特別市政府	1938～1945	3494
臨字24	青島市政府	1941～1949	1806
臨字25	青島市政府統計処	1946～1949	73
臨字26	青島市民政局	1938～1949	693
臨字27	青島市教育局	1923～1949	11239
臨字28	青島市衛生局	1930～1949	1803
臨字29	青島市財政局	1922～1949	6263
臨字30	青品市地政局	1914～1948	1834
臨字31	青島市工各局、青島市交通股份有限公司、青島自来水廠(全宗滙集)	1900～1949	1602

全宗号	宗　号　名　称	档案該当時期	案巻数量
臨字 32	青島市農林事務所	1921 ～ 1949	1163
臨字 33	青島市港務局	1930 ～ 1949	1354
臨字 34	実業部青島商品検験局	1929 ～ 1949	894
臨字 35	青島観象台	1924 ～ 1949	133
臨字 37	青島市職業工会	1946 ～ 1949	71
臨字 38	青島市商会、青島工業会、青島市各同業公会及社会団体(全宗滙集)	1916 ～ 1949	3655
臨字 39	青島市合作社物品供銷処、青島市軍民合作総站(全宗滙集)	1946 ～ 1949	68
臨字 40	青島市各銀行(全宗滙集)	1914 ～ 1949	4607
臨字 41	中国紡織建設股份有限公司青島分公司及所属各廠(全宗滙集)	1922 ～ 1949	7673
臨字 42	斉魯公司青島工廠(全宗滙集)	1926 ～ 1949	682
臨字 44	頤中烟草股份有限公司青島分公司	1919 ～ 1949	1598
臨字 46	資源委員会青島電廠、中国石油有限公司青島営業所(全宗滙集)	1934 ～ 1949	694
臨字 47	膠海関	1898 ～ 1949	1755
臨字 49	財政部青島貨物税局、財政部青島直接税局(連合全宗)	1934 ～ 1949	1044
臨字 51	青島市糧政特派員弁公処、山東田賦糧食管理処青島区儲運処、中国植物油廠青島弁事処(全宗滙集)	1945 ～ 1949	335
臨字 52	山東青島区敵偽産業処理局	1945 ～ 1949	4897
臨字 53	中央信託局青島分局、中央信託局山東青島区敵偽産業清理処(全宗滙集)	1941 ～ 1949	3136
臨字 54	青島一等郵局、青島電信局、郵政儲金滙業局青島分局(全宗滙集)	1925 ～ 1949	1108
臨字 55	青島港務工程局	1947 ～ 1949	395
臨字 56	交通部公路総局第八運輸処青島分処	1943 ～ 1949	44
臨字 58	行政院物資供応局青島弁事処	1946 ～ 1949	222
臨字 59	黄海水産股份有限公司、青島魚市場股份有限公司(全宗滙集)	1915 ～ 1949	425
臨字 60	美国在青社団機構(档案滙集)	1916 ～ 1949	150
臨字 61	青島中国国貨股份有限公司、交通部天津航政局青島弁事処、海軍青島造船所、青島広播電台、山東無線電業行広播電台(全宗滙集)	1931 ～ 1949	873
臨字 62	膠澳塩場公署	1924 ～ 1949	750
臨字 63	世界紅卍字会青島分会	1925 ～ 1949	469
臨字 64	青島市警察局外事科外僑档案	1945 ～ 1949	7907
臨字 65	地所建物株式会社等機構(全宗滙集)	1917 ～ 1948	187

出典：青島市档案館編『青島档案館指南』中国档案出版社(北京)、1998 年、230 ～ 233 頁。

青島は歴史的に日本との関係の深い都市であり、第一次大戦時の日本によるドイツ租借地の占領とそれに続く日本軍政期（1914 ～ 22 年)、1928 年からの日本軍の「山東出兵」による占領、日中戦争期の日本軍の占領（1938 ～ 45 年）と、三度の日本による統治という経験を有している。また日中戦争開始前の青島市の日本人人口は、この様な歴史を反映して 2 万人にも達していたという[2]。

宗号名称からは連想しがたいが、臨字 38「青

(2) 青島市档案館編『帝国主義青島紀実』1995 年、135 頁。

島市商会、青島工業会、青島市各同業公会及社会団体」は、青島の商工業の発展と日本との関係を示唆する多く史料を含んでいる。また臨字64「青島市警察局外事科外僑档案」は、第二次大戦後の日本人の引き揚げに関する膨大な史料群である。このような日本との関係の史料の中で、特に注目されるべきは、旧「在華紡」関係の資料であろう。

第一次大戦を境として、多くの日本紡織企業が青島や上海に直接投資を行い、「在華紡」と呼ばれた紡織工場群を形成した。これにより青島は「上（上海）青（青島）天（天津）」と称せられる上海に次ぐ工業都市へと成長した。

このような日本紡織企業の档案は、表の臨字41「中国紡織建設股份有限公司青島分公司及所属各廠」に含まれている。表題にある中国紡織建設股份有限公司（以下、中紡と略称する）とは、第二次大戦後に国民政府が接収した「在華紡」を統括するために設立した企業である。青島では日本紡織株式会社大康紗廠青島工場（中紡青島第一紡織廠）、内外綿株式会社青島支店（中紡青島第二紡織廠）、日清紡績株式会社隆興紗廠（中紡青島第三紡織廠）、豊田紡織株式会社青島工場（中紡青島第四紡織廠）、上海紡織株式会社青島分工場（中紡青島第五紡織廠）、鐘淵公大第五廠（中紡青島第六紡織廠）、富士瓦斯紡織株式会社青島工場（中紡青島第八紡織廠）、同興紡織株式会社青島工場（中紡青島第九紡織廠）の八カ所の紡織工場と、豊和重工業株式会社青島工場（中紡青島第一機械廠、豊和重工業は豊田式織機株式会社の改称後の名称ー筆者）などが中紡麾下の工場となった。

档案の成り立ちは、筆者の少ない経験から思い起こしても歴史的経緯を強く反映するものだが、青島の旧「在華紡」档案もこのような経緯を反映している。残念ながら戦前の貴重な「在華紡」経営史料は、日本紡織株式会社大康紗廠を除いてほとんど残っていない。それは以下のような事情によるものと思われる。日中戦争勃発直後の1937年8月から、日本軍の青島上陸を予想した中国軍は青島を包囲し、「在華紡」各社も青島総領事の居留民引き揚げ指令に従い9月4日に引き揚げを完了した。しかし12月18日から19日にかけて、中国軍により青島の「在華紡」各社の工場は一斉に爆破され、青島在華紡は壊滅したのである[3]。日中戦争中に各工場の設備自体は部分的に復旧はされたが、それまでの経営史料はこの戦禍を免れることができずに散逸したのであろう。しかし残された史料の中には、在華日本紡績同業会華北支部連席会議議事録など、これまで全く知られていなかった貴重な史料も含まれており、積極的な利用が望まれる。

おわりに

最後に、今回の閲覧時に気がついた青島市档案館の档案の分類方法の特徴について記しておく。表中の分類に見られるように、青島市档案館では、行政機構や企業を単位とした分類がなされている。筆者は、これまでに南京の中国第二歴史档案館と上海市档案館を利用した経験を持っているが、これらの档案館ではこのような行政機構や企業を単位とした分類と、時期を組み合わせた分類をしていた。具体的に述べれば、南京国民政府時期（1927 ～ 37年）、汪精鋭政権期（1938 ～ 45年、中国語では「汪偽政権期」）、内戦期（1946 ～ 49年）といった時期ごとの分類が加えられることにより、档案の検索がより容易となっていた。

中国では、档案の整理・分類は各档案館ごとに基準があり、統一された分類はなく、青島市档案館ではこのような分類方法が採られているものと思われる。そのため閲覧したい档案を探す際には、目星をつけた目録をひたすらめくるという忍耐を要する作業を強いられることになる。上海市档案館では、档案目録がインターネット上に公開され日本からでも検索することができ（http://202.96.224.197/default.html）、面倒くさがり屋の筆者としては、中国の多くの档案館が上海市档案館のようになって欲しいと願うばかりである。

以上、はなはだ雑駁ではあるが、青島市档案館の紹介を終えることにする。

(3) 高村直助『近代日本綿業と中国』東京大学出版会、1982年、229頁。